

第1学年 社会科学学習指導案

日時 平成27年10月1日(木) 5校時

生徒 1年2組 男13名 女15名 計28名

指導者 桑島秀則

1 単元名 第3章 世界の諸地域 第3節 アフリカ州

教材名 アフリカの課題と展望

2 単元について

(1) 教材について

新学習指導要領における「世界の諸地域」の内容は、「各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる」ことが記されている。そこで、大単元「世界の諸地域」を、「アジア州～急速に進む成長と変化」「ヨーロッパ州～国どうしの統合による変化」「アフリカ州～おもな生産品にたよる生活からの変化」「北アメリカ州～盛んな工業や農業の特色」「南アメリカ州～開発の進展と環境問題」「オセアニア州～強まるアジアとの結びつき」の6つの小単元で構成してみた。本小単元「アフリカ州～おもな生産品にたよる生活からの変化～」では、モノカルチャー経済下の人々の生活を「第1次産品に頼るアフリカ諸国の人々はどうのような生活をしているか」という問いを立て、アフリカ諸国の主要生産品、主要国の経済状況と生産物、貿易の様子、主要生産品とアフリカに暮らす人々の生活との関連、旧宗主国など先進国との結びつきなどを追究する。このことにより、アフリカの脆弱な経済基盤とその理由を明らかにし、アフリカの地域的特色の理解につなげていきたい。

(2) 生徒について

1年2組の生徒は、学級の雰囲気は良く、元気もあり、授業も行いやすい。教師の発問に対する反応も社会科好きの生徒を中心に良好だが、難しい課題に対しては、一部の生徒の発言に頼ってしまう傾向にあり、小集団づくりなどの工夫が必要と思われる。小グループによる話し合い活動や、調べ学習もおおむね抵抗なく取り組んでいる。本単元の「アフリカ」について、生徒は、知っている国もエジプトや南アフリカなど3～4か国と少なく、サハラさばくや熱帯の動植物、草原に暮らす野生動物イメージが強く、アフリカの人々の暮らしや社会状況などにはあまり興味関心が高くないのが現状である。

(3) 指導に当たって

本単元は、小学校学習指導要領社会6年の内容(3)「世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。」の学習を受けての単元である。小学校では、日本とつながりの深い国々について学習しているが、本小単元のアフリカ州となると生徒にはあまりなじみがなく予備的な知識も十分とは言えない。アフリカは生徒達にとっては遠い存在なので、身近にあるアフリカの物産やスポーツ・音楽などの話題も交えた授業を展開したい。本時の指導では、生徒の意欲を引き出すためにも身近で関わりの深いチョコレートの原料であるカカオ豆を取り上げ、「モノカルチャー経済下の生活」について理解させることをねらいとしている。輸出用の作物は、天候や景気によって価格が大きく変動し、収入が安定しにくいことや、先進諸国に輸出される商品作物の栽培が中心のアフリカ諸国は、主食となる穀物類の栽培に手が回らず、自給率が下がっていることなどを深く追究させたい。

指導にあたっては、考える力を高め、全ての生徒にわかる喜びを実感させるために、本単元では、小グループによる調べ学習や話し合い活動を取り入れ、生徒同士が学び合うことで、考える力や表現する力を育てていきたい。「カカオ農園の少年の現状」について話し合うことで、モノカルチャー経済の実態などを多面的・多角的につかめるよう指導していきたい。

3 単元の目標

- (1) アフリカ州の地域的特色を理解するために「特定の生産品に頼る生活からの変化」に関する学習テーマを設定し、意欲的に追求する。 【社会事象への関心・意欲・態度】
- (2) アフリカ州の学習テーマを追究していく過程において、その地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果を様々な手法で表現する。 【社会的な思考・判断・表現】
- (3) アフリカ州に関する統計資料の分析、雨温図・主題図・写真の読みとりや比較・関連付けなどの地理的技能を育む。 【資料活用の技能】
- (4) アフリカ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観し、地球儀や地図帳などを活用しながら、それぞれの基礎的・基本的な知識を身につけさせる。 【社会的事象についての知識・理解】

4 単元の評価規準と評価計画・指導計画

時	指導計画	評価規準			
		社会事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
1	1 アフリカ州をながめて ・広大な砂漠が広がるアフリカ ・アフリカのあゆみ ・独自の言語と公用語 ・伝統的な文化	アフリカを概観する中で、サハラさばく以北、以南の人種や言語、宗教の違いに関心を持ち、その過程を意欲的に追究しようとしている。	アフリカの多くの国々は、独自の言語の他に旧宗主国の言語も公用語としていることを、植民地支配と関連があることに気づいている。		広大なさばくを持つ自然、古い歴史と伝統的な文化、サハラさばく以北、以南の人種や言語、宗教の違いなどアフリカの特色を概観し、理解している。
2 ①	2 アフリカの産業と新たな開発 ・プランテーション農業と農牧業 ・豊富な鉱産資源 ・アフリカ産業のしくみ	アフリカの産業と日本人の日常生活徒のかかわりに関心を持ち、アフリカの農業や鉱工業とそれらの生産量や輸出量を中心に意欲的に調べようとしている。		アフリカの農業と工業の特色や問題点を、モノカルチャー経済をキーワードにして、様々な資料の関連づけから読み取っている。	
2 ② 本時	3 カカオ農園から見るアフリカ産業の課題 ・世界に輸出されるカカオ ・カカオ農園の現状と問題点 ・公正な取引		カカオ農園の厳しい現状を理解し、その背景が先進国の都合による自由貿易経済にあることに気づいている。	カカ豆農園で子どもが奴隷的な立場で働かされている理由を、資料をつかって農園主の立場、先進国の都合、アフリカ諸国の立場など多面的に活用することができている。	
3	3 アフリカの課題と展望 ・進む都市化 ・発展への課題 ・地域統合と自立への交流			アフリカの変化と自立へ向けての課題について、教科書の写真を比較しながら論述したり、意見交換したりしている。	現在のアフリカが持っている課題について、都市化、人口増加、環境問題の三つの視点を踏まえて理解している。

5 本時の指導計画

(1) 目標

- ・カカオ農園の厳しい現状を理解し、その背景が先進国の都合による自由貿易などにあることに気づく。【思考・判断・表現】
- ・カカオ農園で子どもが働かされている理由を資料から読みとることができる。【技能】

(2) 展開

時間	学習内容 「おもな発問・指示」	生徒の活動 (◇) 「予想される生徒の反応」	留意点・評価 (○) UDの視点による手立て (★)
2分	1 前時までの想起	◇アフリカの植民地化とプランテーション ◇モノカルチャー経済	○前時までに学習したプランテーションやモノカルチャー経済の実態について要点を想起させる。
8分	2 学習課題の設定 ・「チョコレートの原料は、何ですか。どのようにつくられますか。」 ・「カカオ農園で働く子ども」のビデオを視聴し、感想や疑問点を発表させる。 ・発表をもとに、課題を設定する。	◇カカオ ◇つぶす、溶かす、固める。 ◇「小さい子ども達が重労働させられてかわいそう。」「学校にも行けないんだ。」「なぜ働かなければならないの？」	★市販のチョコレートを見せ、チョコレートができるまでを簡単に説明する。(視覚化) ★「カカオ農園で働く子ども」のビデオを見せ、現状を簡単に補足説明する。(視覚化) ○働いている子どもたちの立場からの課題設定ではなく、使用者の立場から課題を設定する。 ★課題を立てる(焦点化)
なぜ、カカオ農園では子どもたちを働かせるのだろうか。			
5分	3 課題に対する予想をたてる。 「なぜ、カカオ豆農園では子どもたちを働かせるのだろうか。」	◇賃金を抑えるため。 ◇支出を減らしてもうけを増やすため。 ◇農園主が楽をするため。	★予想を発表させることで多様な考え方があることに気づかせる(共有化) ★使用する立場、使用される立場、生産物を輸入する先進国の立場等、多面的な視点を持つようにさせる。(共有化)
10分	4 課題の検証 (1) 検証の見通し 「どんなことを調べると課題を検証できるのだろうか。」	◇カカオ農園主の儲け、収入 ◇子どもが働かなければならない現状(アフリカの貧困)	
10分	(2) 検証への一人学び 「検証資料から読み取ったことをもとにその理由を考えよう。」 検証資料 ①アフリカの貧困状況 ②100円のチョコ1枚の価格の内訳	◇アフリカの貧困人口の割合がとても高い。 ◇生産者の収入が低いから、生産費を抑えるために子どもを働かせた。 ◇日本など輸入国の取り分が多すぎるのが問題だ。	○アフリカの国々がかかえる貧困問題に触れ、働かないと生活していけない現状に気づかせる。 ○カカオ農園主の生活も厳しいことと、その原因が先進国にあることに気づかせる。

<p>8 分</p>	<p>(3) 検証のグループ学び ・1人学びで検証したことを、グループで交流する。 「班ごとに検証した結果をまとめましょう。」</p> <p>(4) 検証した結果を交流し合う</p> <p>□交流のテーマを発表する。 「アフリカの少年労働者を助ける方法はないだろうか。わたしたちができることはないだろうか。」</p>	<p>◇国際的な援助機関に頼る。 ◇日本が先頭に立ち改善していく。 ◇アフリカの現状に関心をもつ。 ◇募金活動、寄付 ◇フェアトレード（公正な取引）について知る。</p>	<p>★グループ毎にまとめたボードを発表しあい、考えの共有化を図る。（共有化）</p> <p>★フェアトレードの商品やフェアトレード価格の資料を見せながら、公正な価格を設定し、生産者の安定した収入が得られるよう努力していることを伝える。（視覚化）</p>
<p>7 分</p>	<p>5 学習のまとめ 「①学習課題の答えを書こう。」 「②今日の授業の感想を書こう。」</p> <p>6次時の予告をする。 「次時はアフリカがかかえる課題と自立に向けた取組について学習します。」</p>	<p>◇①の答え ・アフリカ諸国は貧しく、生活していくのも大変だから。 ・カカオ農園主の収入も少なく、子どもを雇わなければ農園を維持できない。 ・輸入国の取り分が多すぎて生産国の利益がほとんど無い。 ◇②感想 ・私もフェアトレード商品を買ってみようと思う。 ・アフリカの現状がよくわかった。</p>	<p>○学習のまとめは、①課題の答え ②授業の感想の2つを短文にまとめるようにする。</p> <p>★意見交流（共有化） ○本時でも取り上げたアフリカの貧困社会にも触れ、次時につなげる。</p>

◆明確な授業のゴール

カカオ農園で児童労働が行われる背景を、アフリカの貧困社会、原料価格の不安定、生産者の低収入、先進国の利益優先などから、文章にまとめることができる。

◆そのために必要な押さえしておくべき事

- ①アフリカ経済の現状、先進国との関係について理解している。
- ②アフリカ諸国がかかえる諸問題について関心を持っている。
- ③児童労働が行われる原因を2つ以上の視点から考える

◆予想されるつまづき

- ①アフリカの子ども達をめぐる児童労働問題について、多面的な視点で考えることができない。
- ② 資料を読み取り、それを活用してまとめることができない。

◆つまづきをクリアさせるための工夫・配慮 (UD)

①について

【No.6 視覚化2】

カカオ生産の様子や、児童の労働の様子などを画像で示し、イメージを膨らませる。

【No.12 共有化】

児童を実際に働かせる使用者の立場だけでなく、生産物を有する先進国の立場や、私たち消費者の立場など多面的な視点を持つてるように共有化を図る。

②について

【No.7 焦点化2 (説明の焦点化)】

文章資料等、長文の資料をできるだけ用いずに、図やグラフなど読み取りやすい資料を選ぶ。また、要点をコンパクトにまとめながら説明する。

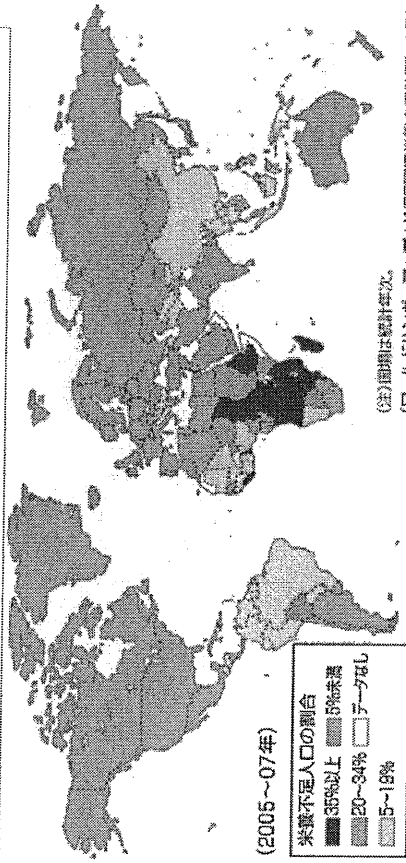
【No.13 手がかり】

課題を解決するために必要な手がかりを与える。

本時のUD全体構想図

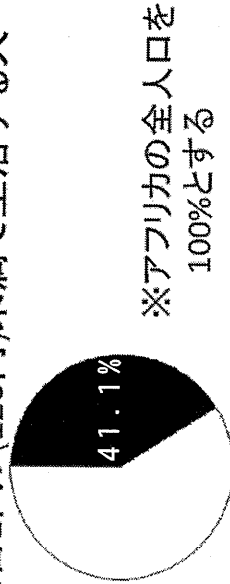
アフリカのカカオ農園では、なぜ、子どもが働かされているのか

検証資料 1-① アフリカの飢餓状況

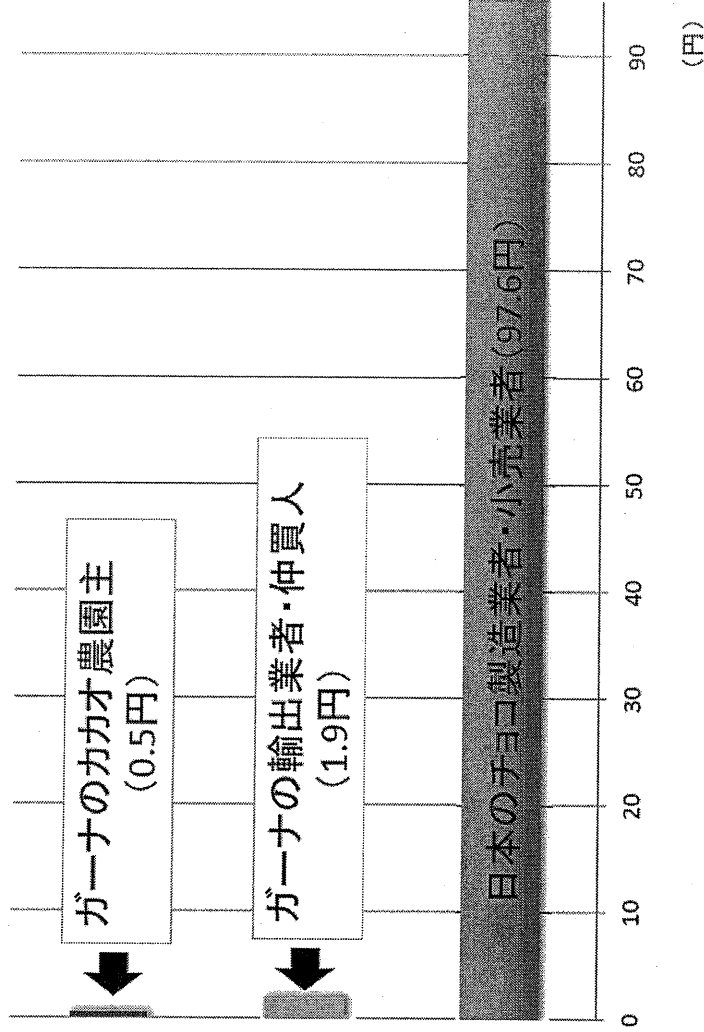


検証資料 1-②

アフリカで1日1ドル(120円)未満で生活する人



検証資料 2 板チョコ1枚(100円)の内訳



上の資料から読みとったことをもとに、「アフリカのカカオ農園では、なぜ、子どもたちが働かされているのか」、その理由を書いてみよう

①資料1をもとに・・・

②資料2をもとに・・・